

第2章 子どもが大切にされるまち 第4節 青少年健全育成

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費				成果				評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)	
			会計	投入コスト		活動実績(R1)		成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)	
青少年課	実施計画ランク	事業の種類	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	作文応募数は、年により変動はあるが、一定数の応募数はあると考えている。	R1年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを			
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	330千円	268千円	①小学生作文応募数	対象児童生徒数に対する作文応募数の割合	家庭の日を認識してもらうことを目的に作文を募集しているため、その応募数を指標とする。	R1年度に改善した点							
	根拠法令	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②中学生作文応募数											
	特になし	330千円	264千円	③	H30年度目標	H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析								
	事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	5.0%	3.9%	R1目標値が未達成の理由・分析								
	青少年を健全に育成するための最も重要な基盤である家庭を改めて認識する「日」を設定し、家庭における青少年健全育成への啓発を図る。市内小学校3年生から中学校3年生を対象に、家庭を基盤として青少年が未来に向けて考えていること(夢・希望・提案)をテーマとした作文を募集し、優秀作品を選考して、優秀者の表彰を行う。	0.25人	非常勤特別職	①141件	R2年度目標	R1実績									
	期間	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	②460件	4.0%	2.4%	R2年度目標								
	昭和48年度～	0.21人	非常勤特別職	③	4.0%										
		1,746千円	臨時職員	0.20人				評価者			引き続き、校長会で作品応募の依頼をしたり、公共施設等にポスターを掲示することにより、応募数の維持、増加に努める。			どのよう貢献したか	作文により自分の家庭を考え、またそれを読んだ人も家庭について考える機会を持ったことに貢献した。
								青少年課長 三上 佳明							
青少年課	実施計画ランク	事業の種類	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	青少年健全育成の実現には、継続的に啓発活動を行うことが効果的であり、全国的に展開する協調月間に合わせて本市の青少年健全育成に関わる各団体の協力を得て活動を行うことは、大変有意義で効果があると考えている。	R1年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを	16. 平和と公平をすべての人に		
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	400千円	361千円	①街頭啓発活動に協力した延べ団体数	啓発物配布数	青少年の非行・被害防止、また健全育成を目的に街頭で啓発活動を行うので、啓発物の配布数を指標とする。	R1目標値が未達成の理由・分析							
	根拠法令	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②街頭啓発活動に協力した延べ人数											
	特になし	400千円	392千円	③街頭啓発活動に協力したジュニア推進員延べ人数	H30年度目標	H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析								
	事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	3000個	3000個	R1目標値が未達成の理由・分析								
	青少年が新たな社会の担い手として、非行に陥ることなく、豊かな個性と能力を持った人間に成長する社会環境を地域社会が主導して創っていくよう、市民全体に呼びかける。青少年の非行・被害防止及び青少年健全育成に係る街頭啓発活動を市と青少年育成市民会議の主催により、関係団体の協力を得ながら実施する。	0.25人	非常勤特別職	①71団体	R2年度目標	R1実績									
	期間	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	②243人	3000個	3200個	R2年度目標								
	平成年度～	0.21人	非常勤特別職	③13人	3200個										
		1,746千円	臨時職員	0.20人				評価者			効果的な啓発活動を行うため、実施の方法等の改善に努めたい。			どのよう貢献したか	年に2回の活動を継続していることで、市民全体が青少年の育成に関心を持ち、地域形成につながる。
								青少年課長 三上 佳明							
青少年課	実施計画ランク	事業の種類	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	経験豊富なガーディアン・エンジェルズメンバーが所沢駅周辺を週末定期的に巡回して、青少年に対する声掛け等を実施することは、町の風紀維持に大変効果があると考えている。また、青少年育成推進員の研修の一環として、推進員がパトロールと同行して活動のノウハウについてレクチャーを受けるなど、青少年団体への好影響も大きいと考えている。	R1年度に改善した点	11. 住み続けられるまちづくりを	16. 平和と公平をすべての人に		
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	1,439千円	1,439千円	①ガーディアン・エンジェルズ延べ活動人数	商店街の巡回回数	所沢駅周辺の環境浄化を目的としているので、その巡回回数を指標としている。	R1目標値が未達成の理由・分析							
	根拠法令	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②											
	特になし	1,452千円	1,452千円	③	H30年度目標	H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析								
	事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	52回	49回	R1目標値が未達成の理由・分析								
	非行行為を青少年の問題としてだけでなく、地域社会全体の問題として捉え、青少年が非行に巻き込まれるような状況の抑止処、また所沢駅周辺の環境浄化を目的とする。所沢駅周辺を週末定期的に巡回して、青少年に対する声掛け等を行う事業を日本ガーディアンエンジェルズに委託して実施している。	0.09人	非常勤特別職	①83人	R2年度目標	R1実績									
	期間	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	②	50回	42回	R2年度目標								
	平成15年度～	0.04人	非常勤特別職	③	45回										
		332千円	臨時職員					評価者			報告内容を関係課に送付するなどして、さらに環境浄化に努める。			どのよう貢献したか	毎週継続した活動により、町の風紀を維持している。
								青少年課長 三上 佳明							
青少年課	実施計画ランク	事業の種類	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	新型コロナウイルス感染防止による利用自粛もあり、利用者数は減少したが、各館の事業等の取組みにより、一定利用数は確保していると考えている。	R1年度に改善した点	3. すべての人に健康と福祉を	11. 住み続けられるまちづくりを		
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託+附加	428,240千円	377,568千円	①開館日数	11児童館における利用者総数	児童館は、児童に健全な遊びを与え、健康を増進し情操を豊かにすることを目的に設置された児童厚生施設であり、また、当該施設で生活クラブや子育て支援を行うことを目的としているから、その利用者数を指標とする。	R1目標値が未達成の理由・分析							
	根拠法令	R1予算現額	R1決算額(見込み)	②行事数											
	児童福祉法・所沢市立児童館設置及び管理条例	435,576千円	398,176千円	③生活クラブ入所者数	H30年度目標	H30実績	R1目標値が未達成の理由・分析								
	事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	370,000人	381,207人	R1目標値が未達成の理由・分析								
	18歳未満の児童の健全育成を図るため、遊びを通じて健康増進及び情操を豊かにするとともに、安全な居場所を提供する。未就学児及びその保護者に対し、子育て・子育てを支援する。放課後留守家庭児童に対し、授業の終了後や長期学校休業日等に適切な遊び及び生活の場を提供する。なお、事業に民間の活力を導入することで、サービスのさらなる向上を図るとともにコストの削減を図る。	0.97人	非常勤特別職	①341日	R2年度目標	R1実績									
	期間	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	②1,018事業	382,000人	342,861人	R2年度目標								
	H24年度～	0.94人	非常勤特別職	③742人	342,000人										
		7,813千円	臨時職員					評価者			利用者を対象としたアンケート結果でも満足度の高い結果となっている。引き続き、モニタリング等を通じて、児童館運営の適正を確保する。			どのよう貢献したか	乳幼児とその保護者、小中学生の居場所作りとして貢献した。
								青少年課長 三上 佳明							

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費				成果				評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)	
			会計	投入コスト		活動実績(R1)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)		
青少年課	実施計画ランク	事業の種類	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	本団体は、本市の青少年健全育成にかかる中心的役割を担っている団体であり、歴史も古く、市全域への影響が大きい。歴史を重ねる各スポーツ大会の実施やふるさと意識の醸成に資する「所沢郷土かるた」を用いた事業など参加者も多く優良な事業を実施するほか、青少年の非行防止・健全育成を目的に街頭啓発活動を中心になって実施するなど、本市の青少年健全育成に大変貢献している。今後も交付金の補助額は維持しながら、市は同団体と連携して青少年健全育成に取り組みたい。	R1年度に改善した点	3. すべての人に健康と福祉を	11. 住み続けられるまちづくりを		
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	5,850千円	5,850千円	①スポーツ大会・家庭の日・非行防止等の青少年健全育成に係る事業の年間実施数	青少年体力つくりスポーツ大会参加者数	青少年の非行防止・健全育成を目的に各種事業を行うので、代表的な事業であるスポーツ大会への参加者数を指標とする。								
	青少年育成所沢市民会議交付金	根拠法令	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	③	実績	H30年度目標	H30実績							
		青少年育成所沢市民会議交付金交付要綱・所沢市補助金等交付規則	R1予算現額	R1決算額(見込み)			R元年度目標	R1実績							
		事業の目的及び具体的な内容	0.75人	0.05人			R2年度目標								
		青少年健全育成団体の連絡調整を図り、総合的の企画を遂行する青少年育成所沢市民会議に対し、その財源として補助を行う。広報活動、かるた大会、街頭キャンペーン、各種スポーツ大会等の実施のほか、地域青少年育成団体の活動費の交付や青少年健全育成事業への助成を行っている。	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合			①25件	3000人						2348人	
期間	昭和48年度～	6,982千円	0.09人	②		2400人									
青少年課	実施計画ランク	事業の種類	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	年によって変動はあるが、概ね貸出数はあったと考えている。	R1年度に改善した点	3. すべての人に健康と福祉を			
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	0千円	0千円	①利用件数	テント利用延数	自然の中での集団活動を目的のため、テントの貸出数を指標とする。								
	キャンプ用品等貸出事業	根拠法令	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	③	実績	H30年度目標	H30実績							
		所沢市「緑に親しむ運動」キャンプ用具の貸出要綱	R1予算現額	R1決算額(見込み)			R元年度目標	R1実績							
		事業の目的及び具体的な内容	0.08人				R2年度目標								
		市内青少年に緑と土と太陽に親しませ自然の中での集団活動を通じて、心身の健全な発達を図るためキャンプ用具を貸し出す。	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合			①18件	30張						31張	
期間	S49～	748千円		②656人		30張									
青少年課	実施計画ランク	事業の種類	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	限られた人員の中で、自主事業等を着実に実施して、青少年の健全育成に貢献していると考えます。	R1年度に改善した点	3. すべての人に健康と福祉を			
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	72千円	72千円	①活動実施回数	相談員の登録人数	青少年相談員の数の増加が活動の活性化につながり、ひいては青少年の健全育成に資することから、相談員の数を指標としている。								
	青少年相談員協議会補助金	根拠法令	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	③	実績	H30年度目標	H30実績							
		埼玉県青少年相談員設置要綱・所沢市青少年相談員設置要綱・所沢市青少年相談員協議会補助金交付要綱	R1予算現額	R1決算額(見込み)			R元年度目標	R1実績							
		事業の目的及び具体的な内容	0.11人				R2年度目標								
		地域社会において、友愛精神をもって青少年に接し、その相談相手となり、助言活動を行い、健全な青少年育成に資するために、補助金を交付している。当該団体は、レクリエーションやキャンプなどの活動を通じて、学校や学年を超えた仲間づくり、リーダーを含めた異年齢同士の交流を目的に事業を実施している。	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合			①14回	10人						8人	
期間	昭和40年度～	249千円		②86人		10人									
社会教育課	実施計画ランク	事業の種類	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	子ども会の異年齢集団による様々な遊びや生活体験・自然体験には、子どもたちが協調性や自己決定能力等を獲得する効果が期待できる。その活動を支える子ども会育成会活動は、地域の人々が子どもの健全育成に携わることを中心としており、地域の教育力向上に寄与している。今後も、本事業を通じて子ども会活動を支援していく。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに			
	優先	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	2,589千円	2,427千円	①「彩の国21世紀郷土かるた」所沢大会参加者数	子ども会の会員人数(人)	多くの子どもたちに子ども会活動へ参加してもらえるよう、各小学校区の子ども会会員数を指標とした。								
	子ども会育成事業	根拠法令	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	③	実績	H30年度目標	H30実績							
		社会教育法、所沢市校区子ども会育成交付金交付要綱、所沢市子ども会育成会連絡協議会補助金交付要綱	R1予算現額	R1決算額(見込み)			R元年度目標	R1実績							
		事業の具体的な内容及び目的	0.31人	0.15人			R2年度目標								
		様々な生活体験・自然体験の機会を充実させ、子どもたちの「生きる力」を育むため、子どもの自主性に基づく地域の子ども会活動の振興を図るために校区を単位にその支援を行う。また、各校区子ども会育成会相互の連携・情報交換・研修及び広域的な事業を行いながら、各校区子ども会育成会を支援している所沢市子ども会育成会連絡協議会に対しても支援を行う。	R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合			①414人	14,400						15,744	
期間	昭和48年度～	3,075千円	0.00人	②57人		14,400									

所属名称	事務事業名称	事業概要(全体)	経費			成果			評価及び次年度以降に向けた課題・取り組みなど			SDGsへの貢献(最大3つ)	
			会計	投入コスト		活動実績(R1)	成果指標		総合評価	評価理由	現状の課題	事業自体が貢献する項目	実施手法等の工夫により貢献できた項目(任意)
社会教育課	実施計画ランク	事業の種類	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	成果指標の目標値はやや下回っているが、各団はキャンプなど野外活動の実施を中心に様々な活動を行うとともに、市民文化フェアや市民フェスティバル等での奉仕活動なども行っており、本市の青少年健全育成への貢献度は高い。また、公民館等で行われる地区文化祭にも積極的に参加しており、地域のコミュニティ機能が変容し地域の教育力低下が指摘されている中、市内でのボーイスカウト・ガールスカウトの活動意義は大きく、今後とも活動支援を継続していく。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	180千円	180千円	①部隊数 ②団員加入人数	補助団体の年間事業数(件)	R1目標値が未達成の理由・分析	各団の活動場所を確保するため公共施設利用等の支援を行った。					
	根拠法令	社会教育法、ボーイスカウト補助金交付要綱、ガールスカウト補助金交付要綱	R1予算現額	R1決算額(見込み)				H30年度目標			H30実績		
	青少年団体活動助成事業	事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	300	256	どのよう貢献したか					
	期間	昭和50年度～	0.08人	0.00人				R元年度目標			R1実績		
			670千円	0.00人	①18部隊	300	289						
		R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	②190人	R2年度目標								
		0.00人	0.00人		300								
		0千円	0.00人										
社会教育課	実施計画ランク	事業の種類	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	成果指標の目標値を下回ってはいるが、実行委員会が主体となり、多くの事業を通じて子どもたちの健全育成に貢献して、一定の成果を上げていると考える。学校教育の枠を超えて、子どもたちが自分たちの感性を伸ばせる場をより多く提供できるよう、引き続き支援をしていく。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	3,264千円	3,095千円	①各事業の開催延べ日数 ②文学・イラストの応募作品数 ③事業の参加者延べ人数	市内児童・生徒の事業参加率(%)	R1目標値が未達成の理由・分析	学校にも本事業を理解して協力をいただき、多くの子どもたちに参加してもらうために、新たにチラシを作成して配布した。					
	根拠法令	社会教育法、所沢こどもルネサンス実行委員会補助金交付要綱	R1予算現額	R1決算額(見込み)				H30年度目標			H30実績		
	所沢こどもルネサンス開催支援事業	事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	28.0%	30.0%	どのよう貢献したか					
	期間	平成2年度～	0.43人	0.00人				R元年度目標			R1実績		
			3,603千円	0.00人	①26日	31.0%	22.5%						
		R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	②3517点	R2年度目標								
		0.53人	0.00人	③5442人	31.0%								
		4,405千円	0.00人										
社会教育課	実施計画ランク	事業の種類	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		A	成果指標の目標値を達成しており、野外で絵を描く機会や家族がふれあう場を提供するだけでなく、行政・協賛企業(民間)・実行委員会(ボランティア)・学校の連携によって実施されていることに大きな意義があると評価も高い。近年は大会のみならず、作品展の充実にも力を入れており、全国有数の歴史を持つ写生大会として、新たな取り組みを企画する点も大きく評価しており、今後も各方面からの協力をいただきながら、継続して実施していきたい。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	225千円	246千円	①提出された作品数 ②写生大会当日の参加者数 ③作品展の参加者数	子どもの作品提出率(%)	R1目標値が未達成の理由・分析	多くの方に作品展に参加してもらえるように、武蔵野美術大学の学生や実行委員によるワークショップを実施した。					
	根拠法令	社会教育法、文化芸術振興基本法、所沢市子ども写生大会実行委員会交付金交付要綱	R1予算現額	R1決算額(見込み)				H30年度目標			H30実績		
	子ども写生大会開催事業	事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	90.0%	90.0%	どのよう貢献したか					
	期間	昭和61年度～	0.42人	0.00人				R元年度目標			R1実績		
			3,520千円	0.00人	①1,358点	90.0%	95.3%						
		R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	②2,103人	R2年度目標								
		0.50人	0.00人	③1,173人	90.0%								
		4,156千円	0.00人										
社会教育課	実施計画ランク	事業の種類	H30予算現額	H30決算額	項目名	指標名	目標設定の考え方・根拠		B	成果指標の目標値も上回っており、一定の評価を得ているが、運営面などの課題が指摘されている。テレビやインターネットなど映像に触れる機会が多い中、実際に公演を見ることで子どもたちの豊かな感受性や想像力を育む場として、また、アマチュア人形劇団の交流と研鑽の場でもある本事業を継続するためにも、実行委員会とともに、よりよい運営に向けて検討を進めていきたい。	R1年度に改善した点	4. 質の高い教育をみんなに	
	重要	■ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託＋附加	310千円	310千円	①参加団体数 ②来場者数	来場者の満足度(%)	R1目標値が未達成の理由・分析	より多くの子どもたちに人形劇に触れる機会を増やすために人形づくりと劇遊びを行うワークショップを実施した。					
	根拠法令	社会教育法、ところざわ人形劇フェスティバル実行委員会補助金交付要綱	R1予算現額	R1決算額(見込み)				H30年度目標			H30実績		
	ところざわ人形劇フェスティバル開催支援事業	事業の目的及び具体的な内容	H30正規職員人件費	H30その他職員従事割合	実績	100.0%	100.0%	どのよう貢献したか					
	期間	平成4年度～	0.15人	0.00人				R元年度目標			R1実績		
			1,257千円	0.00人	①8団体	100.0%	100.0%						
		R1正規職員人件費	R1その他職員従事割合	②227人	R2年度目標								
		0.18人	0.00人		100.0%								
		1,496千円	0.00人										